

個別事業シート

事業名	合同会社面談会	戦略における項目	1 飯塚を担うヒトづくり 1-1 市内企業の雇用促進 1-1-1 市内企業と求職者マッチング強化 1-1-1 (1) 市内企業と求職の出会いの場の創出
概要			
概要	デジタル化に積極的な市内企業とデジタル化の習得に意欲的な求職者とのマッチングを図るための面談会を開催。 （厚生労働省の提案公募型の委託事業である「地域雇用活性化推進事業」を活用。令和4年10月から令和7年3月末まで委託契約内容に基づき事業実施）		
主体	誰が、どこが	飯塚地域雇用創造協議会	
対象	働きかける相手・もの	デジタル化に積極的な市内企業及びデジタル化の習得に積極的な求職者	
手段	方法・働きかけ（活動指標）	合同会社説明会を開催し、デジタル人材を求める企業とデジタル化の習得に積極的な求職者をマッチングさせる。	
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	参加した求職者の参加企業への就労。	
実績			
実績指標		2022年度	2023年度
参加企業数		20社	30社
来場者数（求職者数）		27名	75名
就労者数（参加企業の来場者以外の雇用及び来場者の参加企業以外への採用を含む）		4名	45名
2024年度			
29社			
65名			
63名			
これまでの成果と課題			
【成果】	合同会社説明会の開催日直前に台風10号が直撃するというあいにくの状況となり、来場者数は減少したものの就労者数は昨年を上回った。		
【課題】	今後も市のHPやSNSだけでなく、飯塚地域雇用創造協議会のHPやSNSと合わせた周知を行い、より多くの参加者を確保していく必要がある。		
今後の事業の方向性や改善策			
本事業は厚生労働省の委託事業である「地域雇用活性化推進事業」を活用し、市内企業と求職者のマッチングを図るため実施していたものであるが、令和6年度末をもって同省の委託事業が完了した。 今年度は同省の委託事業（R7～9）の採択を目指し、今後についても企業と求職者のマッチング事業を継続する。			

個別事業シート

事業名	デジタル人材と企業のマッチング促進事業	戦略における項目	1 飯塚を担うヒトづくり 1-1 市内企業の雇用促進 1-1-1 市内企業と求職者マッチング強化 1-1-1 (1) 市内企業と求職の出会いの場の創出
概要			
概要	市内企業とデジタル化への理解と関心の高い求職者、大学生及び創業希望者とのマッチングを図るため、カジュアルな面談会を開催。 (厚生労働省の提案公募型の委託事業である「地域雇用活性化推進事業」を活用。令和4年10月から令和7年3月末まで委託契約内容に基づき事業実施)		
主体	誰が、どこが	飯塚地域雇用創造協議会	
対象	働きかける相手・もの	市内企業とデジタル化への理解と関心の高い求職者、大学生及び創業希望者	
手段	方法・働きかけ（活動指標）	個別就職相談会及びマッチングパーティーを開催し、市内企業とデジタル化への理解と関心の高い求職者、大学生及び創業希望者をマッチングさせる。	
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	参加した求職者の参加企業への就労及び創業希望者の市内での起業。	
実績			
実績指標		2022年度	2023年度
参加企業数		7社	16社
来場者数		22名	23名
就労者数（参加企業の来場者以外の雇用及び来場者の参加企業以外への採用を含む）		2名	21名
2024年度			
28社			
42名			
80名			
これまでの成果と課題			
【成果】	昨年度と比較し、参加企業数及び来場者数が増加したことで就労者数も増加することができた。		
【課題】	カジュアルな雰囲気企業と求職者が気軽に面談できる、双方にメリットがある事業ではあるが、参加企業、来場者ともにアウトプットは計画の7割程度の実績となり、今後も市のHPやSNSだけでなく、飯塚地域雇用創造協議会のHPやSNSと合わせた効果的な周知を検討のうえ、アウトプットの確保が必要である。		
今後の事業の方向性や改善策			
本事業は厚生労働省の委託事業である「地域雇用活性化推進事業」を活用し、市内企業と求職者のマッチングを図るため実施していたものであるが、令和6年度末をもって同省の委託事業が完了した。 今年度は同省の委託事業（R7～9）の採択を目指し、今後についても企業と求職者のマッチング事業を継続する。			

個別事業シート

事業名	つなぐカフェ@飯塚	戦略における項目	1 飯塚を担うヒトづくり 1-1 市内企業の雇用促進 1-1-1 市内企業と求職者マッチング強化 1-1-1 (2) 市内企業と大学生の出会いの場・交流の場の創出
概要			
概要	学生と地域企業、及び地域社会との接点として、学生が気軽に集まりやすい場所＝「つなぐカフェ@飯塚」を設置し、「人・企業・社会」を繋ぐ場所として、将来における飯塚地域活性化の拠点へと発展させていくことを目指すもの。具体的には、学生と地域企業等との交流イベント、企業等の開発段階商品等に対する学生のアイデアを活用したテストマーケティングや学生の研究・就活支援ツールの提供等も行うなど、大学生と地域企業や地域社会との結びつきを強めるような事業を展開することにより、カフェを拠点にした地域全体の活性化を促進させるもの。		
主体	誰が、どこが	NPO法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター つなぐカフェ@飯塚運営委員会	
対象	働きかける相手・もの	市民、学生、企業	
手段	方法・働きかけ（活動指標）	対象者が相互に交流を行うイベント・仕掛けづくり	
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	対象者が結び付くことで地域の活性化を図る	
実績			
実績指標		2022年度	2023年度
利用者数		1216人	1564人
イベント数		46回	108回
これまでの成果と課題			
【成果】	つなぐカフェの認知が少しずつ拡がり、利用が促進されている。特に子育て分野での利用が増加。また、大学生の利用が増えており、大学生が主催するイベント等を実施。大学生と地域を繋ぐ場として成長している。		
【課題】	大学生や関係者における利用は増えているものの、市民や企業等のユーザーの増加を図れていない。つなぐカフェにおけるイベントの周知、来訪促進等により認知拡大が必要。		
今後の事業の方向性や改善策			
大学生と地域（市民、企業等）を繋ぎ、地域産業等の活性化を図るべく、引き続き利用促進に取り組みたい。			

個別事業シート

事業名	産学官交流促進事業	戦略における項目	1 飯塚を担うヒトづくり 1-1 市内企業の雇用促進 1-1-1 市内企業と求職者マッチング強化 1-1-1 (2) 市内企業と大学生の出会いの場・交流の場の創出	
概要				
概要	産学官の交流の場を提供し、情報交換等を通じて相互の懇親を深め、飯塚地域における産学官連携による産業・学術の振興に寄与することを目的として、セミナー及び交流会を開催。			
主体	誰が、どこが	飯塚市（産学振興担当）、飯塚研究開発機構、嘉飯桂産業振興協議会		
対象	働きかける相手・もの	地域の産学官関係者（企業、起業家、大学研究者、学生、産業支援機関、行政）、一般市民		
手段	方法・働きかけ（活動指標）	産学官の垣根を越えたネットワークづくりのため、地域の産学官関係者が定期的に交流し、情報交換ができる場を提供。		
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	参加者間の交流が深まることによって、新規事業への展開、ビジネスパートナーの獲得、産学連携プロジェクトの創出に必要な「顔の見えるネットワーク」を形成してもらう。		
実績				
実績指標		2022年度	2023年度	2024年度
二一ズ回開催回数		6回	6回	5回
二一ズ回参加者数		249名	286名	193名
これまでの成果と課題				
【成果】	効率的な運営が行えるように、実施主体が連携して事業を運営した。			
【課題】	実施内容が中小企業の労働生産性を上げていくためにDXが必要と判断して実施したため、DX関連の内容が多くなっているが、 今後は飯塚市の産業構造に沿った内容のセミナーについても実施していく必要がある。			
今後の事業の方向性や改善策				
一定の成果は出ている。飯塚の産業振興の文化として引き続き産学官交流促進事業として二一ズ会を続けていく。 様々な関係機関とのコラボレーションにより、魅力あるセミナーを実施し、参加者数の増加を図る。				

個別事業シート

事業名	大学生への説明会・面接会	戦略における項目	1 1-1 1-1-1 1-1-1 (2)	飯塚を担うヒトづくり 市内企業の雇用促進 市内企業と求職者マッチング強化 市内企業と大学生の出会いの場・交流の場の創出
概要				
概要	市内3大学等との連携のもと、大学生の採用を求める市内企業の説明会及び面接会を開催する。（年2回開催） （厚生労働省の提案公募型の委託事業である「地域雇用活性化推進事業」を活用。令和4年10月から令和7年3月末まで委託契約内容に基づき事業実施）			
主体	誰が、どこが	飯塚地域雇用創造協議会		
対象	働きかける相手・もの	市内3大学等の大学生と大学生の採用を求める市内企業		
手段	方法・働きかけ（活動指標）	大学生への説明会・面接会を開催し、市内3大学等の大学生と大学生の採用を求める市内企業をマッチングさせる。		
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	参加した大学生の参加企業への就労		
実績				
実績指標		2022年度	2023年度	2024年度
参加企業数		11社	50社	33社
参加大学生数		11名	17名	32名
就労者数（参加企業の来場者以外の雇用及び来場者の参加企業以外への採用を含む）		0名	15名	29名
これまでの成果と課題				
【成果】	昨年度と比較し、参加企業数及び参加者数が増加し、就労者数も増加することができた。			
【課題】	本事業は大学生のみを対象としたものため参加者が限定的であり、今後は対象を若者層を含め、広く拡大したマッチングイベントの検討が必要である。			
今後の事業の方向性や改善策				
本事業は厚生労働省の委託事業である「地域雇用活性化推進事業」を活用し、市内企業と大学生のマッチングを図るため実施していたものであるが、令和6年度末をもって同省の委託事業が完了した。 今年度は同省の委託事業（R7～9）の採択を目指し、今後については求職者の対象を大学生から拡大しマッチング事業を継続する。				

個別事業シート

事業名	大学生の企業訪問事業	戦略における項目	1 1-1 1-1-1 1-1-1 (2)	飯塚を担うヒトづくり 市内企業の雇用促進 市内企業と求職者マッチング強化 市内企業と大学生の出会いの場・交流の場の創出
概要				
概要	製造や販売の現場を学び、社員との意見交換を希望する市内大学等に在籍する大学生を対象に、製造業及び小売業等の企業への訪問、社員との意見交換を実施する。 （厚生労働省の提案公募型の委託事業である「地域雇用活性化推進事業」を活用。令和4年10月から令和7年3月末まで委託契約内容に基づき事業実施）			
主体	誰が、どこが	飯塚地域雇用創造協議会		
対象	働きかける相手・もの	市内3大学等の大学生と訪問先市内企業		
手段	方法・働きかけ（活動指標）	大学生の企業訪問を実施し、市内3大学等の大学生が訪問先の市内企業を見学し、社員との意見交換を行う。		
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	参加した大学生が訪問先企業へ就労。		
実績				
実績指標		2022年度	2023年度	2024年度
参加企業数		3社	3社	5社
参加大学生数		9名	7名	14名
就労者数（参加企業の訪問大学生以外の雇用及び参加大学生の訪問企業以外への採用を含む）		0名	0名	1名
これまでの成果と課題				
【成果】	昨年度までと比較し、参加企業及び参加大学生が増加となった。また、訪問先企業が本事業参加者ではないものの、大学生を1名新規採用することができた。			
【課題】	事業対象者を大学生に限定したことで、参加者の確保が難しく、参加した大学生の訪問先企業への就職も難しい。			
今後の事業の方向性や改善策				
本事業は厚生労働省の委託事業である「地域雇用活性化推進事業」を活用し、市内企業と大学生のマッチングを図るため実施していたものであるが、令和6年度末をもって同省の委託事業が完了した。 今年度は同省の委託事業（R7～9）の採択を目指し、同事業を活用して求職者の対象を拡大しマッチング事業を継続する。				

個別事業シート

事業名	嘉飯桂産業振興協議会事業（人材育成事業）	戦略における項目	1 1-1 1-1-2 1-1-2(1)	飯塚を担うヒトづくり 市内企業の雇用促進 市内企業の魅力向上支援 市内企業の魅力創造・向上の強化
概要				
概要	嘉飯桂産業振興協議会会員企業を対象に、各企業の人材育成の支援として、嘉飯桂産業振興協議会が研修を提供し、さらに外部の研修受講に対しての助成を実施。 <嘉飯桂産業振興協議会が提供する研修> ・新入社員研修 ・普通救命講習 ・経営者交流セミナー			
主体	誰が、どこが	嘉飯桂産業振興協議会		
対象	働きかける相手・もの	嘉飯桂地域の企業・従業員		
手段	方法・働きかけ（活動指標）	研修の提供、外部研修の受講費に対して助成金を交付		
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	会員企業の社員（若手）を参加対象にしており、ビジネスマナーの向上や異業種企業における社員間の交流が図られる。		
実績				
実績指標		2022年度	2023年度	2024年度
研修実施回数・参加者数		3回、93名	3回、92名	3回、99名
研修助成活用者数		38者	37者	36者
これまでの成果と課題				
【成果】	会員企業に対し、人材育成に資する講座・セミナー等の受講費の一部に助成金を交付することで、地域人材の育成に寄与。新規の加入企業からは、地域にこのような団体があることは研修を行うことでもつながりを作るうえでも、持続可能性に寄与しているという声があった。			
【課題】	助成金の交付を受けている会員企業は4割にとどまっているため、同助成金の活用を促していく必要がある。			
今後の事業の方向性や改善策				
同事業の周知、活用促進を図り、多くの企業の中で課題になっている人材育成の解決に繋げていく。				

個別事業シート

事業名	デジタル活用による健康経営講習会	戦略における項目	1 1-1 1-1-2 1-1-2(1)	飯塚を担うヒトづくり 市内企業の雇用促進 市内企業の魅力向上支援 市内企業の魅力創造・向上の強化
概要				
概要	具体的なデジタル化の方策を習得する取組として市が推進する健康経営をデジタルにより実現することで事業所の魅力を創造する講習会を開催する。なお、健康経営とは雇用面を重視し従業員等の健康管理を経営的な視点（従業員のパフォーマンスやコンディションの改善を事業の効率化、生産性向上、働き方の改善につなげること）で考え、戦略的に実践することと位置付けるもの。 （厚生労働省の提案公募型の委託事業である「地域雇用活性化推進事業」を活用。令和4年10月から令和7年3月末まで委託契約内容に基づき事業実施）			
主体	誰が、どこが	飯塚地域雇用創造協議会		
対象	働きかける相手・もの	デジタル化に積極的な市内企業		
手段	方法・働きかけ（活動指標）	全5回の企業向け講習会を開催する。		
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	講習会を受講した企業が健康経営をデジタル化により実現することで雇用を確保する。		
実績				
実績指標		2022年度	2023年度	2024年度
参加企業数		15社	15社	26社
雇用者数		14名	12名	69社
これまでの成果と課題				
【成果】	市内事業所と求職者のマッチングを図る合同会社説明会への出展に、飯塚地域雇用創造協議会が実施する企業向け講習会への参加を必須としたことで、参加企業が増加した。それにより、雇用者数も増加した。			
【課題】	雇用者増に向けて、講習会参加企業の確保に向けた取組みが必要である。			
今後の事業の方向性や改善策				
本事業は厚生労働省の委託事業である「地域雇用活性化推進事業」を活用し、市内企業の魅力向上・事業拡大を図るため実施していたものであるが、令和6年度末をもって同省の委託事業が完了した。 今年度は同省の委託事業（R7～9）の採択を目指し、今後についても企業の魅力向上・事業拡大に資するような事業を継続する。				

個別事業シート

事業名	採用力強化講習	戦略における項目	1 1-1 1-1-2 1-1-2(2)	飯塚を担うヒトづくり 市内企業の雇用促進 市内企業の魅力向上支援 市内企業の経営力・採用力の強化
概要				
概要	市内企業が人材獲得のために採用市場に必要な採用力を強化するフレームワーク（企業全体で活用できる共通の仕組み）について理解し、事業所の特徴、魅力を活かした具体的な採用に係る解決策を事例等により習得する講習会を開催。 （厚生労働省の提案公募型の委託事業である「地域雇用活性化推進事業」を活用。令和4年10月から令和7年3月末まで委託契約内容に基づき事業実施）			
主体	誰が、どこが	飯塚地域雇用創造協議会		
対象	働きかける相手・もの	デジタル化に積極的な市内企業		
手段	方法・働きかけ（活動指標）	全5回の企業向け講習会を開催する。		
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	講習会を受講した企業が採用力を強化する。		
実績				
実績指標		2022年度	2023年度	2024年度
参加企業数		11社	35社	42社
雇用者数		13名	65名	89名
これまでの成果と課題				
【成果】	市内事業所と求職者のマッチングを図る合同会社説明会への出展に、本講習会への参加を必須としたことで、参加企業が増加した。それにより、雇用者数も増加した。			
【課題】	雇用者増に向けて、講習会参加企業の確保に向けた取組みが必要である。			
今後の事業の方向性や改善策				
本事業は厚生労働省の委託事業である「地域雇用活性化推進事業」を活用し、市内企業の魅力向上・事業拡大を図るため実施していたものであるが、令和6年度末をもって同省の委託事業が完了した。 今年度は同省の委託事業（R7～9）の採択を目指し、今後についても企業の魅力向上・事業拡大に資するような事業を継続する。				

個別事業シート

事業名	求職者支援事業	戦略における項目	1 1-1 1-1-3 1-1-3(1)	飯塚を担うヒトづくり 市内企業の雇用促進 多様な人材の雇用促進 多様な働き方に関するセミナーや研修の強化
概要				
概要	国や県の就労者支援機関と連携し、各団体が実施するセミナーや研修に関する情報共有、周知、共催、後援等を実施し事業を促進する。			
主体	誰が、どこが	飯塚市（商工観光課）		
対象	働きかける相手・もの	市内中小企業、求職者		
手段	方法・働きかけ（活動指標）	各団体が実施するセミナーや研修等に関する情報を市内に発信し参加を促す。		
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	求職者が自分らしく働ける様々な働き方があることをしり、企業側も求職者が働きやすい魅力ある会社づくりを行い、企業側と求職者側のニーズが一致することで雇用促進につなげる。		
実績				
実績指標		2022年度	2023年度	2024年度
解雇・雇止め集中相談会 相談件数		17件	19件	41件
労働教育講座 参加者数		12名	24名	14名
労働経営セミナー 参加者数		9名	25名	20名
これまでの成果と課題				
【成果】	国や県が実施するセミナー等に市が共催、後援し、市報やホームページ等で情報発信を行った。			
【課題】	セミナーによっては会場参加よりオンラインのほうが参加者数が多いものもある。当日どうしても参加できない方のためにアーカイブ配信するなど開催方法を工夫する必要がある。			
今後の事業の方向性や改善策				
今後も国や県が開催するセミナー等に共催、後援して市報やホームページで情報発信をして、少しでも多くの市民に情報が届けていく。				

個別事業シート

事業名	UIJターン説明会・相談会	戦略における項目	1 1-1 1-1-3 1-1-3(2)	飯塚を担うヒトづくり 市内企業の雇用促進 多様な人材の雇用促進 UIJターン人材・即戦力人材獲得に向けた支援強化
概要				
概要	市内事業所への就職及び飯塚市への移住を希望するUIJターン求職者の就職を促進するため、東京等の都市圏での市内企業の紹介及び相談会を実施する。 （厚生労働省の提案公募型の委託事業である「地域雇用活性化推進事業」を活用。令和4年10月から令和7年3月末まで委託契約内容に基づき事業実施）			
主体	誰が、どこが	飯塚地域雇用創造協議会		
対象	働きかける相手・もの	市内事業所への就職及び飯塚市への移住を希望するUIJターン求職者		
手段	方法・働きかけ（活動指標）	UIJターン説明会・相談会において市内企業の紹介及び相談を受け付ける。		
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	UIJターン希望者を飯塚市内へ移住させ、市内企業へ就職させる。		
実績				
実績指標		2022年度	2023年度	2024年度
紹介企業社数		8社	77社	75社
説明会・相談会参加者数		7名	30名	26名
UIJターンし市内企業へ就労した人数		0名	0名	2名
これまでの成果と課題				
【成果】	昨年度並みの紹介企業数、参加者数を確保できた。また、説明会・相談会参加者から2名が市内企業へ就職した。			
【課題】	本市へのUIJターン希望者に対し、SNS等を活用した効果的な周知を行うことで参加者を確保する取組が必要である。			
今後の事業の方向性や改善策				
本事業は厚生労働省の委託事業である「地域雇用活性化推進事業」を活用し、市内企業と本市へのUIJターン希望者のマッチングを図るため実施していたものであるが、令和6年度末をもって同省の委託事業が完了した。 今年度は同省の委託事業（R7～9）の採択を目指し、今後についても同様の事業を継続する。				

個別事業シート

事業名	外国人材受入環境整備事業費補助金	戦略における項目	1 1-1 1-1-3 1-1-3 (3)	飯塚を担うヒトづくり 市内企業の雇用促進 多様な人材の雇用促進 外国人材の活用促進
概要				
概要	外国人材に就業地として飯塚市を選択してもらうとともに、飯塚市での就業および暮らしに対する満足度を高め、長期にわたって活躍できる環境を整備することにより、企業の人手不足の解消を図ることを目的に、技能実習や特定技能等の外国人材の就業環境・生活環境の整備及び地域社会との共生を促進する活動を行った際にかかる費用の一部を補助する。			
主体	誰が、どこが	飯塚市（国際政策課）		
対象	働きかける相手・もの	外国人材を雇用している又は雇用を検討している市内事業者、外国人材に関する支援団体等		
手段	方法・働きかけ（活動指標）	飯塚市外国人材受入環境整備事業費補助金の交付		
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	市内事業者における外国人材の雇用促進、外国人材から選ばれるまちづくりの推進。		
実績				
実績指標		2022年度	2023年度	2024年度
ヒアリングした市内事業者・支援団体数		34社	59社	43社
飯塚市外国人材活躍応援宣言登録証交付件数		-	15件	8件
外国人材受入環境整備事業費補助金交付決定件数		-	13件	9件
これまでの成果と課題				
【成果】	外国人材を受け入れる際の初期費用が高く、負担を感じている事業者が多いため、本補助金を活用していただくことで、外国人材の就労・生活環境の整備を行うことができ、外国人材の就業及び生活の満足度を高めることができた。			
【課題】	市内と市外の監理団体で補助限度額に差を設けることに意味はなく、また雇用人数の多い少ないに関わらず、補助限度額が同じであることに不公平との意見もあった。今後は適切な補助要件となるよう企業ヒアリングを行いながら、検討を重ねていく必要がある。			
今後の事業の方向性や改善策				
市内在住の外国人籍の人数は令和7年3月末時点で過去最多の2041人に達し、補助事業を活用した雇用先の外国人材の多くが「飯塚市に就職して良かった」との声が上がっている。他の県や市からの問い合わせも増えており、今後も事業を継続し、選ばれるまちを目指すしたい。ただし、補助金は一度きりの活用であり、申請件数は減少が予想されることから、企業には「外国人材活躍応援宣言」などを通じて意識づけを行い、関係機関と連携しながら、優秀な外国人材の集積を図りたい。また、円安の影響などから働く場所として選ばれにくくなっているため、企業側へ意識付けを行うとともに、補助金条件の見直しも進めたい。				

個別事業シート

事業名	福岡県生涯現役チャレンジセンター	戦略における項目	1 1-1 1-1-3 1-1-3 (4)	飯塚を担うヒトづくり 市内企業の雇用促進 多様な人材の雇用促進 アクティブシニア人材の市内企業向け紹介制度の強化
概要				
概要	福岡県生涯現役チャレンジセンター（旧福岡県70歳現役応援センター）飯塚オフィスにおいて、高齢者が多様な活躍の機会を得られるよう、就業や社会参加を促進する。 (1) 高齢者の活躍の場を拡大 (2) 高齢者の就職や社会参加を支援 (3) 各種セミナーの開催 (4) 「ふくおか子育てマイスター」の認定を支援			
主体	誰が、どこが	飯塚市（商工観光課）		
対象	働きかける相手・もの	60歳以上の就業、社会参加希望者		
手段	方法・働きかけ（活動指標）	専門相談員、コーディネーターが仕事やボランティア活動を希望する高齢者の相談に応じ、再就職先やボランティア活動を紹介する。		
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	高齢者が年齢にかかわらず、能力を生かして職場や地域で多様な活躍できる場を提供する。		
実績				
実績指標		2022年度	2023年度	2024年度
相談件数		3117件	2989件	2937件
登録者数		193名	209名	228件
就職等進路決定者数		252名	260名	263件
これまでの成果と課題				
【成果】	個人で求職活動をしてなかなか採用まで至らない方もセンター職員の支援により希望する時間帯の仕事や職種への就職に結びついている。			
【課題】	登録者数、進路決定者数ともに増加傾向にあるが相談件数が減少傾向にあり、多くの高齢者にセンターの存在を知ってもらうため広報を強化する必要がある。			
今後の事業の方向性や改善策				
今後も高齢者からのニーズが高まると考えられ、市も継続して周知していく。				

個別事業シート

事業名	インターンシップ推進協議会事業		戦略における項目	1 1-2 1-2-1 1-2-1(2)	飯塚を担うヒトづくり 就職促進 市内企業と求職者のマッチング強化 市内企業と大学生の出会い・交流の場創出
概要					
概要	筑豊地域4大学、企業、行政機関、産業支援機関等の関係団体の連携の下、インターンシップ及び地元企業見学会を実施（筑豊5市・筑豊4大学・産業支援機関等） 関係機関の連携の下、企業と大学との相互理解を深め友好関係を築くとともに、人材の交流や地元定着を通して地域振興に繋げていくことを目的とするもの。				
主体	誰が、どこが	筑豊地域インターンシップ推進協議会（事務局：飯塚研究開発機構）			
対象	働きかける相手・もの	筑豊地域内の大学に通う学生と地域の企業			
手段	方法・働きかけ（活動指標）	インターンシップと企業見学会			
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	1. 筑豊地域4大学、企業、行政機関、産業支援機関等の関係団体の連携強化 2. 人材の交流や地元定着			
実績					
実績指標			2022年度	2023年度	2024年度
インターンシップ受入企業数・インターンシップ参加学生人数			11社、2市、32名	11社、1病院、2市、34名	9社、1病院、2市、34名
企業見学会実施企業数、参加学生数			2社、2市、1団体、14名	3社、2市、1団体、9名	5社、2市、9名
これまでの成果と課題					
【成果】	コロナ禍で活動を縮小した時期もあったが、令和4年度以降は予定通り実施し、一定の参加者が集まっている。				
【課題】	学生の参加者数増のための取り組み、参加した学生が実際に地域定着に繋がっているか検証が必要。				
今後の事業の方向性や改善策					
市外への人材流出が続いており、市内での就職、定住施策としても必要な事業である。魅力ある地元企業の情報発信を強化し、インターンシップ及び地元企業見学会の参加者増加を図ることで事業効果の拡大を図る。					

個別事業シート

事業名	ワンストップサービスセンターe-ZUKA事業	戦略における項目	1 1-2 1-2-2 1-2-2(1)	飯塚を担うヒトづくり 就職促進 就労相談 ワンストップサービスセンターe-ZUKAでの就労相談実施
概要				
概要	若年者を安定的な雇用へ導くために、キャリアコンサルタントによる就職相談窓口を県と共同であいタウン2階の市民交流プラザ内に設置し、アドバイザーがマンツーマンで就職に関する様々な相談に対応して将来に向けた進路選択やその後の就職活動を支援する。 ＜主な事業内容＞ ①アドバイザーによる個別就職相談（応募書類の添削、面接対策、模擬面接） ②パソコンを活用した就職活動（タイピングトレーニング、Word、Excel練習） ③就職に役立つセミナーの開催や会社説明会の情報提供			
主体	誰が、どこが	飯塚市（商工観光課）		
対象	働きかける相手・もの	15歳から39歳までの若者		
手段	方法・働きかけ（活動指標）	福岡県及び受託事業者と連携し、アドバイザーが対象者の就職に関する相談から就職達成まで対応		
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	対象者に多く来所してもらうことにより、若年者の就職につなげる。		
実績				
実績指標		2022年度	2023年度	2024年度
相談受付件数		244件	195件	257件
新規登録者数		23名	15名	22名
就職者数		38名	16名	38名
これまでの成果と課題				
【成果】	就職者数が昨年度の2倍になり、若者の就職支援に成果が出ている。			
【課題】	近年はインターネットで就職を探せる時代になってはいるが、自分にあった職業が分からない、面接が苦手など悩みを抱える若者にマンツーマンできめ細やかな就職支援が受けられる当センターの良さをより多くの若者に知ってもらう必要がある。			
今後の事業の方向性や改善策				
ワンストップサービスセンターでは仕事やキャリアについての悩みや、就労段階に応じて、どう乗り越えたら良いか寄り添いながら具体的に助言し、一人ひとりの状況に合わせて支援しており今後も事業を継続する。				

個別事業シート

事業名	求職者支援事業（飯塚市内企業に関する情報提供機能の強化）	戦略における項目	1 1-2 1-2-2 1-2-2(2)	飯塚を担うヒトづくり 就職促進 就労相談 市内企業に関する情報提供機能の強化
概要				
概要	ママと女性の就業支援センター、若者サポートステーション等各就労者支援機関との連携を図り、求職者に対し市内中小企業に関する情報を提供し市内中小企業への就職を促進する。			
主体	誰が、どこが	飯塚市（商工観光課）		
対象	働きかける相手・もの	市内中小企業及び市内中小企業に就職を希望する求職者		
手段	方法・働きかけ（活動指標）	各就労者支援機関が連携し、人材を確保したい市内中小企業に関する情報を共有する。		
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	求職者が市内中小企業に就職することにより、市内中小企業の人材確保を促進する。		
実績				
実績指標		2022年度	2023年度	2024年度
ママと女性の就業支援センター（筑豊エリア）就職者数		67人	105人	97人
障害者就業・生活支援センター（飯塚エリア）就職者数		16人	16人	21人
若者サポートステーション（飯塚サテライト）就職者数		73人	38人	54人
これまでの成果と課題				
【成果】	就職者数のうち飯塚市内の企業への就職者数の内訳の把握ができないが、各就労者支援機関から就職に結びついている。			
【課題】	各就労者支援機関の就職者数の実績は福岡県が調査しており、飯塚市内企業への就職者数の内訳が把握できないことが課題。			
今後の事業の方向性や改善策				
今後も市のホームページで各就労者支援機関について広報を行い、支援を必要とする方に情報を届けていく。				

個別事業シート

事業名	キャリア教育	戦略における項目	1 1-3 1-3-1 1-3-1(1)	飯塚を担うヒトづくり 人材育成 キャリア教育・リカレント教育・女性の促進 キャリア教育・リカレント教育の連携強化
概要				
概要	市内小中学校の生徒を対象に、市内外の企業での職場体験や企業が抱える課題をテーマとしたワークショップ等を実施。企業や社会情勢の深掘り、課題の探求や解決策の提案を一貫して実施し、課題解決力をもった人材の育成を行う。			
主体	誰が、どこが	福岡県中小企業家同友会		
対象	働きかける相手・もの	市内の小中学生		
手段	方法・働きかけ（活動指標）	市内外企業への企業訪問や企業が抱える課題をテーマとしたワークショップ		
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	・企業が抱える課題の解決を図るプロセスを通して、生徒の思考力や判断力、表現力などの育成が図られる。 ・地域の企業について理解を深め、生徒の地域への理解や郷土愛が養われる。		
実績				
実績指標		2022年度	2023年度	2024年度
参加学校数		1校	1校	1校
参加企業数		3社	3社	3社
これまでの成果と課題				
【成果】	参加企業が抱える課題を解決する活動を通して、未来の自分や身近な社会のために主体的に行動しようとする態度を養うことができた。普段接する機会の少ない企業と連携して課題解決型学習を行うことを通して、参加した子どもたちが自らの役割を自覚し、他者と協働して共に創り上げる力を養うことができた。			
【課題】	取り組み当初から事業への参加を希望する学校数が伸び悩んでいる。学校側の参加の可否決定が取り組みを推進する先生に依存している側面もあり、教育委員会内で取り組みの成果を共有するなど学校側の協力も必要である。			
今後の事業の方向性や改善策				
取り組みの成果を企業・学校双方が積極的にPRし、参加企業や参加学校の増加を目指す。				

個別事業シート

事業名	テック×デザイン講座	戦略における項目	1 1-3 1-3-1 1-3-1(3)	飯塚を担うヒトづくり 人材育成 キャリア教育・リカレント教育・女性の促進 地域経済での女性の活躍促進
概要				
概要	飯塚市内の小中高生をターゲットとした、デザイン思考やプログラミング的思考等に関するワークショップを開催。なお、令和5年度は女子生徒向けとしていたが、令和6年度は男女ともに対象とし、親子で参加できるプログラムとすることで、子どもと一緒に技術者という進路を考える機会を提供。 ※2023年度新規事業			
主体	誰が、どこが	九州工業大学（共催：飯塚市）		
対象	働きかける相手・もの	飯塚市内在住または飯塚市内の小学・中学・高校に通う小学5年生～高校1年生		
手段	方法・働きかけ（活動指標）	デザイン思考やプログラミング的思考等に関するワークショップを実施。		
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	時代に即した人材の育成、女性活躍の推進		
実績				
実績指標		2022年度	2023年度	2024年度
イベント実施回数		—	3回	3回
イベント参加人数		—	16名	大人 21名 子ども 23名
これまでの成果と課題				
【成果】	参加した児童・生徒への実施後アンケート調査では、やりたかったことが「できた」「ある程度できた」との回答が7割、また「とても楽しかった」「楽しかった」との回答も7割となっており、一定の人材育成の成果があった。 また、男女ともに参加可能としたことで参加者の増加を図ることができた。			
【課題】	市内には2つの理工系大学があるものの、市内からの進学者数が低迷している。継続して理系人材の育成を図り、市内大学への進学、就職を図っていく必要がある。			
今後の事業の方向性や改善策				
令和5年度は女子中高生のみを対象としていたため参加者が低迷していたが、令和6年度は男女ともに対象とし、さらには親子で参加可能とするなどの見直しを図ることで参加者の増加が図れた。今後も適宜、見直しを図り、参加者の増加につなげていく。				

個別事業シート

事業名	デジタル人材育成事業	戦略における項目	1 1-3 1-3-2 1-3-2(1)	飯塚を担うヒトづくり 人材育成 デジタル人材の育成 小中高大連携によるデジタル人材の育成
概要				
概要	令和4年12月1日付、飯塚市、SAPジャパン株式会社、株式会社テクノスジャパン及び国立大学法人九州工業大学は、市内の小学校、中学校、高等学校及び大学のデジタル人材の育成に関し、デジタル技術を活用できる人材の育成及びデジタル技術の習得による地域経済の活性化に寄与することを目的とした連携協定を締結。 本協定に基づき、SAP社が提供するデザイン思考やERPsimのワークショップにより、成長段階に応じたキャリア形成などデジタル技術を活用できる人材育成に取り組む。			
主体	誰が、どこが	飯塚市及び飯塚地域雇用創造協議会		
対象	働きかける相手・もの	小学生、中学生、高校生、大学生		
手段	方法・働きかけ（活動指標）	成長段階に応じたワークショップ（デザイン思考、ERPsim等）を開催		
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	デジタルを活用できる人材育成に取り組む		
実績				
実績指標		2022年度	2023年度	2024年度
ワークショップ開催数		4回	3回	3回
ワークショップ参加者数		92名	104名	284名
これまでの成果と課題				
【成果】	市内の小学校1校、中学校1校（2学年）に対しワークショップを開催し、デジタル人材の育成に取り組むことができた。			
【課題】	広くデジタル人材の育成を図るため、これまでに本事業を実施できていない小中学校での開催を検討する。			
今後の事業の方向性や改善策				
今後もワークショップにより、成長段階に応じたキャリア形成などデジタル技術を活用できる人材育成の取組みを継続する。				

個別事業シート

事業名	デジタル人材育成講習会	戦略における項目	1 1-3 1-3-2 1-3-2(2)	飯塚を担うヒトづくり 人材育成 デジタル人材の育成 求職者のデジタルスキル向上強化
概要				
概要	デジタル化による事業拡大の具体的な事例として、インターネット上での情報活用手段であるWEB製作を習得するとともに、習得の過程においてテクノロジー（科学技術）と事業活動の融合（クロステック）について学ぶことのできる求職者のデジタル能力の向上を図る講習会を開催する。 （厚生労働省の提案公募型の委託事業である「地域雇用活性化推進事業」を活用。令和4年10月から令和7年3月末まで委託契約内容に基づき事業実施）			
主体	誰が、どこが	飯塚地域雇用創造協議会		
対象	働きかける相手・もの	デジタル化への理解と関心の高い求職者		
手段	方法・働きかけ（活動指標）	全4回の講習会を求職者向けに開催する。		
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	講習会を受講した求職者のデジタル能力の向上を図る。		
実績				
実績指標		2022年度	2023年度	2024年度
参加者数		19名	62名	48名
採用者数		2名	7名	8名
これまでの成果と課題				
【成果】	講習会参加者は計画数を上回っている一方、採用に結びついた人数は、飯塚地域雇用創造協議会が開催した講習会の中でも低い水準となった。			
【課題】	講習会へ参加するものの、雇用に結びつかなかった原因を究明し、今後の事業に反映する必要がある。			
今後の事業の方向性や改善策				
本事業は厚生労働省の委託事業である「地域雇用活性化推進事業」を活用し、魅力ある雇用を担う人材育成を目的に実施していたものであるが、令和6年度末をもって同省の委託事業（第2期・R4～6）が完了した。 令和7年度は同省の委託事業（第3期・R7～9）の採択を目指し、今後についても同様の事業の取組みを継続する。				

個別事業シート

事業名	学び増し人材育成講習会	戦略における項目	1 1-3 1-3-2 1-3-2(2)	飯塚を担うヒトづくり 人材育成 デジタル人材の育成 求職者のデジタルスキル向上強化
概要				
概要	非正規従業員、IT初心者など幅広い層のデジタル化を図るため、デジタル人材育成講習会の内容を質・量ともに軽減し、受講しやすくするためホームページの制作・活用に特化した講習会を開催する。 （厚生労働省の提案公募型の委託事業である「地域雇用活性化推進事業」を活用。令和4年10月から令和7年3月末まで委託契約内容に基づき事業実施）			
主体	誰が、どこが	飯塚地域雇用創造協議会		
対象	働きかける相手・もの	デジタル化への理解と関心の高い求職者		
手段	方法・働きかけ（活動指標）	全4回の講習会を求職者向けに開催する。		
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	講習会を受講した求職者のホームページ制作・活用に特化したデジタル能力の向上を図る。		
実績				
実績指標		2022年度	2023年度	2024年度
参加者数		20名	20名	28名
採用者数		3名	4名	4名
これまでの成果と課題				
【成果】	参加者数は昨年度よりも増加したが、採用者数は同数であった。			
【課題】	参加者数を確保し、本講習会受講者と雇用を目指す企業を結び付け、採用者数増を目指す必要がある。			
今後の事業の方向性や改善策				
本事業は厚生労働省の委託事業である「地域雇用活性化推進事業」を活用し、魅力ある雇用を担う人材育成を目的に実施していたものであるが、令和6年度末をもって同省の委託事業（第2期・R4～6）が完了した。 令和7年度は同省の委託事業（第3期・R7～9）の採択を目指し、今後についても同様の事業の取組みを継続する。				

個別事業シート

事業名	D X リーダー育成講習会		戦略における項目	1 1-3 1-3-2 1-3-2(2)	飯塚を担うヒトづくり 人材育成 デジタル人材の育成 求職者のデジタルスキル向上強化
概要					
概要	求職者が就職した市内企業・事業所での能力発揮にとどまらず、当該企業のデジタルトランスフォーメーションを他の社員に指導するなど、D X をけん引するリーダーとなることを目指し、デジタル化の好事例やD X 導入による費用対効果等の企業経営の視点でデジタル能力を習得する講習会を開催する。 （厚生労働省の提案公募型の委託事業である「地域雇用活性化推進事業」を活用。令和4年10月から令和7年3月末まで委託契約内容に基づき事業実施）				
主体	誰が、どこが	飯塚地域雇用創造協議会			
対象	働きかける相手・もの	デジタル化への理解と関心の高い求職者			
手段	方法・働きかけ（活動指標）	全4回の講習会を求職者向けに開催する。			
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	講習会を受講した求職者を就労先企業においてデジタルトランスフォーメーションを他の社員に指導するなどD X をけん引するリーダーにしたい。			
実績					
実績指標			2022年度	2023年度	2024年度
参加者数			11名	18名	32名
採用者数			1名	9名	6名
これまでの成果と課題					
【成果】	講習会参加者は計画数を下回っており、採用に結びついた人数についても飯塚地域雇用創造協議会が開催した講習会の中では低い水準となった。				
【課題】	講習会へ参加するものの、雇用に結びつかなかった原因を究明し、今後の事業に反映する必要がある。				
今後の事業の方向性や改善策					
本事業は厚生労働省の委託事業である「地域雇用活性化推進事業」を活用し、魅力ある雇用を担う人材育成を目的に実施していたものであるが、令和6年度末をもって同省の委託事業（第2期・R4～6）が完了した。 令和7年度は同省の委託事業（第3期・R7～9）の採択を目指し、今後についても同様の事業の取組みを継続する。					

個別事業シート

事業名	グローバル人材育成研修事業	戦略における項目	1 1-3 1-3-3 1-3-3(1)	飯塚を担うヒトづくり 人材育成 グローバル人材の育成 姉妹都市との交流を通じた学生の人材育成	
概要					
概要	市内在住の中学1年生～高校2年生を姉妹都市である米国サニーベール市に派遣し、ホームステイや現地学生との交流を通して、多文化への理解やコミュニケーション能力を向上させ、飯塚市を担い国際的な視野を持って活躍できる人材育成を目的とした事業。帰国後においては、 <u>帰国報告会を行うとともに地域活動等への参加を促し、継続して国際人材育成を行っている。</u>				
主体	誰が、どこが	飯塚市（国際政策課）			
対象	働きかける相手・もの	市内在住の中学1年生～高校2年生			
手段	方法・働きかけ（活動指標）	①事前・事後研修②アメリカでの現地研修（ホームステイ、現地学生との交流、異文化体験）③帰国報告会			
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	積極性やコミュニケーション能力を向上させる。帰国後に日本語教室の支援等の事後活動へ参加することにより、継続して将来の飯塚市を担う人材として育成する。			
実績					
実績指標			2022年度	2023年度	2024年度
事前研修・説明会・事後研修・帰国報告会の実施			8	9	9
研修の参加者数			20	20	20
これまでの成果と課題					
【成果】	研修生20名を選考後、異文化理解研修、コミュニケーション研修、福岡アメリカンセンターでの研修など5回の事前研修を経て、8日間の現地研修を行った。研修後に行った研修生アンケートでは、研修の前後で意識や態度が向上した結果が見られた。19名がいくつか人材育成グループ『ユリシス』に加入したことから、今後も人材育成につながる活動への参加が期待できる。				
【課題】	円安、燃油の高騰及びアメリカの物価上昇により事業費が増額傾向にある。				
今後の事業の方向性や改善策					
事前研修の回数及び内容、現地研修の滞在日数、事後研修の回数及び帰国報告会を通して事業の目的を達成できており、一定の成果がみられる。研修生の負担額が増額とならないように現在のコスト投入を維持しつつ、現地研修の内容をサニーベール姉妹都市協会と共有し事業の検証を行う。また、事前研修の内容について業務の効率化を検討する。					

個別事業シート

事業名	姉妹都市交流事業	戦略における項目	1 1-3 1-3-3 1-3-3(1)	飯塚を担うヒトづくり 人材育成 グローバル人材の育成 姉妹都市との交流を通じた学生の人材育成	
概要					
概要	米国サニーバール市と平成25年12月に友好交流関係協定、平成28年12月に姉妹都市協定を締結し、将来世代の人材育成を図ることを目的に、学校間交流やサニーバール市の中高生を受け入れることでホームステイや学校訪問による異文化交流を実施している。その他、児童絵画交流、大人の交流等を行うことで交流の幅が広がっている。 令和5年度は交流10周年を記念し、交流団が相互に訪問し記念事業を実施した。				
主体	誰が、どこが	飯塚市（国際政策課）			
対象	働きかける相手・もの	飯塚市民、サニーバール市民、両市内の関係部署			
手段	方法・働きかけ（活動指標）	サニーバール中高生や大人の受け入れによる交流			
意図	対象をどのようにしたいか（目的や事業効果）	姉妹都市の認知度向上、国際感覚の醸成、異文化コミュニケーション力の向上に繋がる交流市民の数を増やす。			
実績					
実績指標			2022年度	2023年度	2024年度
交流事業の開催回数			13回	26回	12回
事業に参加した市民			372名	746名	527名
サニーバール市からの参加者数			24名	65名	48名
これまでの成果と課題					
【成果】	S2I（エス・トゥ・アイ：Sunnyvale to Iizuka）事業によるサニーバール市からの中高生の来飯やAEP交流事業（アダルト・エクスチェンジ・プログラム）による大人の来飯により、市としてはホストファミリーや市内の学校にて受け入れを行うことで、市の国際化と多文化共生の地域づくりに貢献することができた。				
【課題】	実際に受け入れを行なうには言葉の壁が大きいと感じる方も多く、ホストファミリーの募集には苦慮している。 今後、姉妹都市交流事業等を通じて、市全体の国際化を推進していく必要がある。				
今後の事業の方向性や改善策					
S2I事業時の受入校4校（中学校2校・高校2校）を維持・確保することにより、市内の学校における国際交流の機会を設ける。 また、市立図書館間、大学間など、幅広く交流の輪を広げ、市全体の国際化を推進していく必要がある。					